

20 日

授験料値上げ、二部

——全学総決起集会

改廃阻止を意志一致

二十日、本校学館解放広場Ⅱ中庭において「全学総決起集会」が開催された。

この集会は、学費全面値上げ見送りと同時に決定された受験料六〇%値上げおよび「二部統廃合実力阻止」に向けて設定されたもの。十四日付「学費全面値上げ見送り発表」以後、学内において、学費闘争に関する明確な方針は出されなかつた。また、二部統廃合問題に関する、一部の不充足性を踏まえての、今後の方針を全学的に確認するものとしてあった。

本集会は、その間々々までの不充足性を補い、さらには、受験料値上げ実力阻止の強固な意志一致をからませたものとして位置付けられるであろう。

だが、「学費全面値上げ見送り発表」のためか、あるいは帰郷した学友が多いのか、参加者の数は少ない。しかし、その間々々なかにあっても、「今回の受験料値上げは来年度学費全面値上げ発表の重要な布石」、「学費値上げ攻撃

が社会再編に際した教育の帝国主義的再編の個別明大における具体化であり、こうした段階的値上げこそ、より当局の近代近攻撃としてかけられてきているなどの受験料値上げ阻止」の意志一致はかちとられていった。

そして最後に「日々々の授業のなかに貫徹されている明大近代化路線Ⅱ中教養路線に対してクラス末端からの闘いが要請されている。そのためにも翌日(二十一日)予定されているところの全三部クラス討論集会在重要なカナメとなる」との学苑会中執らの発言が確認され、集会を終え、デモ行進に移っていった。

十四日以後、学内の戦列は急激な変化を示してきた。だが、問題の一切は解決されていない。たんに個別学費のみを問題として闘うのではなく、われわれは、大学における教育矛盾そのものの本質を突き破る闘いとして、再度学費闘争を視つめなおさねばならぬ。

この日の集会は、当局の分断攻撃に明確に対決するものとして、確認されていたことによって、二十三日の連合教授会実力介入団交の勝利を導くものとなった。